

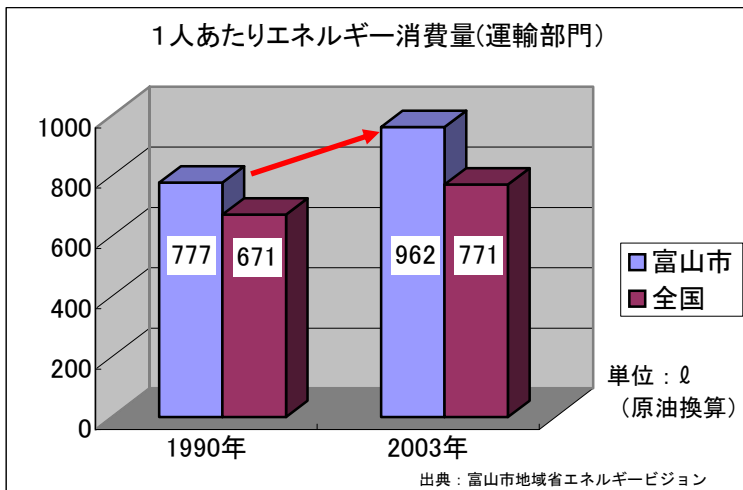
# 富山市公共交通活性化による 省エネルギービジョン

PR版



富山市では、車に頼らなくても便利に安心して暮らせる公共交通活性化によるコンパクトなまちづくりを進めています

## 車によるエネルギー消費がふえています



富山市における、人や物の輸送のために使ったエネルギーの消費量は、2003年では1990年と比べ1人あたり約24%も増加しています。また、全国平均と比べても、エネルギー消費量が多くなっています。

背景としては、市民の多くが、自家用車に過度に依存した生活をしていることがあげられます。

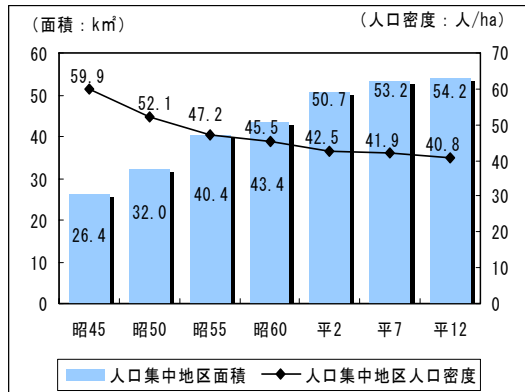
車を動かすための石油は限られた資源です。また、地球温暖化防止への取り組みのため、温室効果ガスである二酸化炭素の削減が急務となっています。

わたしたちひとりひとりが、車中心の生活を見直す必要があります。

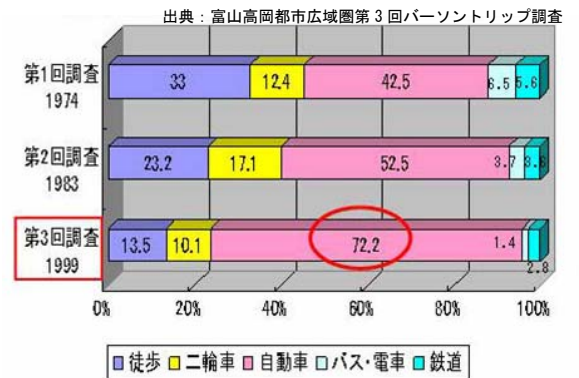
クルマの運転を控え、公共交通の積極的な利用で、  
地球温暖化防止と省エネルギーにつとめましょう

# 富山市の課題

富山市は、平坦な地形であることや持ち家志向が高いことから、郊外部の開発が進み、市街地が拡散しつづけています。この結果、市街地の人口密度は全国の県庁所在地の中で最下位となっています。また、市街地の拡散は、道路整備を促進し、自動車での移動が大変便利なまちになっています。市民の交通手段の約72%が自動車である一方、公共交通による移動はわずかに約4%という調査結果が出ています。



人口集中地区面積と人口密度の推移 出典：国政調査



交通手段の分担率

では、市街地が広がっていたり、車への依存が高いと何が問題なのでしょうか？

## ● 車が使えないと生活しづらいまち

多くの人が車を使うことによって、公共交通の利用者が減り、ますます公共交通が不便になる悪循環が続いています。車を使うことができなく、公共交通に頼らざるを得ない人達の移動が困難になりつつあります。今後、高齢化社会の進展により車を運転できなくなる人が増え、日常生活に不便を感じる人が増えることが予想されます。

## ● 行政コストが増大

総人口が減少に向かう中、市民の居住範囲が増加すると、税収が伸びないにもかかわらず、道路・下水・公園など都市の維持管理に必要な行政コストが増え続けます。

## ● 中心市街地の空洞化など都市活力の低下と魅力の喪失

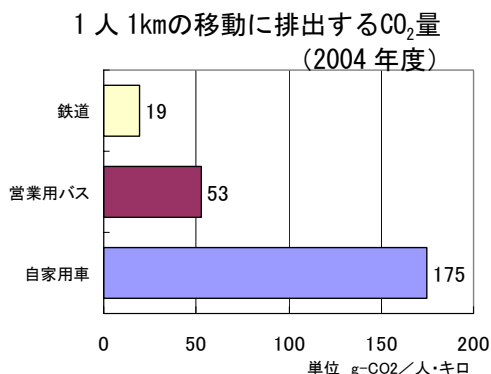
郊外型の商店が増え続け、中心市街地や身近な地域の商店が衰退することにより、まちのにぎわいが失われ、富山市全体の活気や魅力が失われていきます。

## ● 自動車依存による、エネルギー消費、温室効果ガス排出の増加

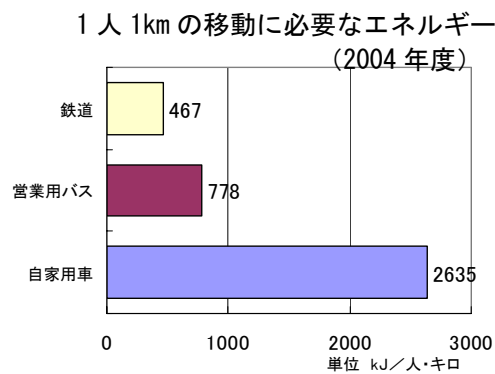
郊外に拡散した都市は、通勤や買い物など、どんな用事にも自家用車が必要となり、限られたエネルギー資源の消費や温室効果ガスの排出が多くなりやすい都市構造になっています。

## 参考

ひとりでも多くの人が自動車利用を減らし、公共交通を利用することにより、温室効果ガス排出の減少と省エネルギーに貢献することができます。



出典：「運輸・交通と環境」  
交通エコロジー・モビリティ財団（2006年版）



出典：「交通関係エネルギー要覧」  
国土交通省（平成18年度版）

# 富山市が目指すコンパクトなまちづくり

本市では、これらの課題に対処するため、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを進めています。

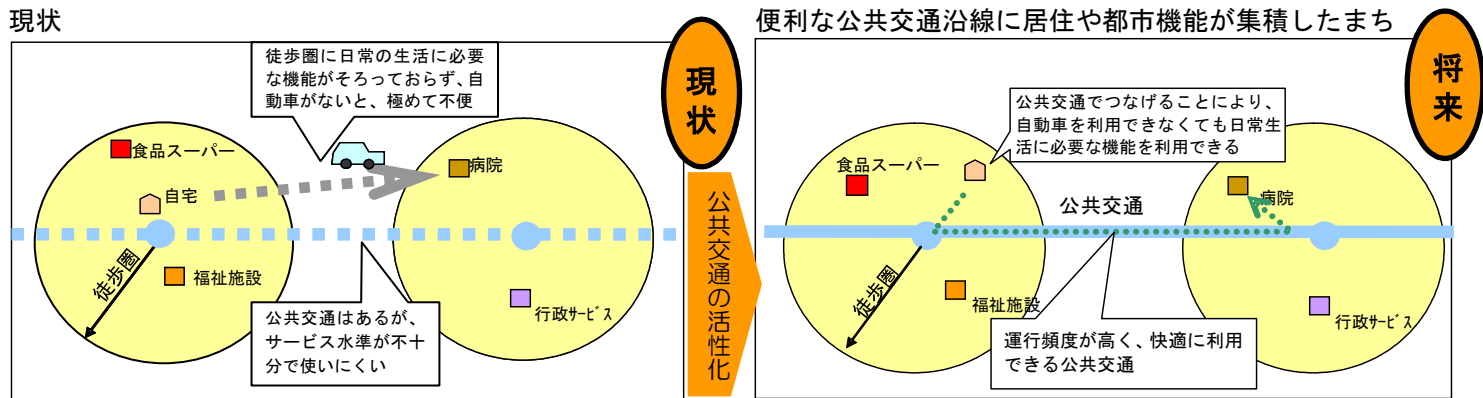
富山型コンパクトなまちづくりでは、鉄軌道やバスなどの公共交通の活性化を図るとともに、徒歩圏（お団子）を公共交通（串）でつなぐことにより、自動車を自由に使えない市民も、日常生活に必要な機能を楽しむ生活環境の形成をめざしています。

富山市が目指すお団子と串の都市構造（概念図）



## 公共交通活性化により期待される効果

公共交通の活性化により、自動車に依存しなくても、日常生活に必要なサービスを利用できる生活環境が形成されます。



居住および、商店や病院などの都市機能が集約したコンパクトなまちは、車を使えない人にとって便利なまちになるだけでなく、車を使う人にとっても運転機会が減少することで、自家用車利用によるエネルギーの消費が減少し、地球環境にもやさしいまちになります。

## 富山ライトレールの効果

JR富山港線を路面電車化することにより、活性化させた富山ライトレールの効果

### 活性化策

- ・ 日中の運転間隔を1時間に1本から、15分毎に。また終電を午後9時代から午後11時台に
- ・ バリアフリーの低床車輻や施設の導入
- ・ 魅力あるデザイン
- ・ ICカードによる料金収受

### 効果

- ・ 利用客の増加 平日で約2.2倍、休日で約5.3倍に
- ・ 高齢者利用者の増加 高齢者（60代以上）の利用が平日で約3.5倍、休日で約7.4倍に
- ・ 自家用車からの転換 平日の利用者の約12%が、自家用車からの転換者（平成18年10月調査。平成17年10月調査との比較）

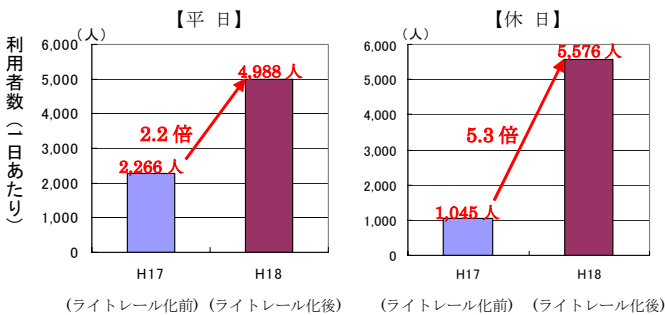


図 利用者数（平日）

図 利用者数（休日）

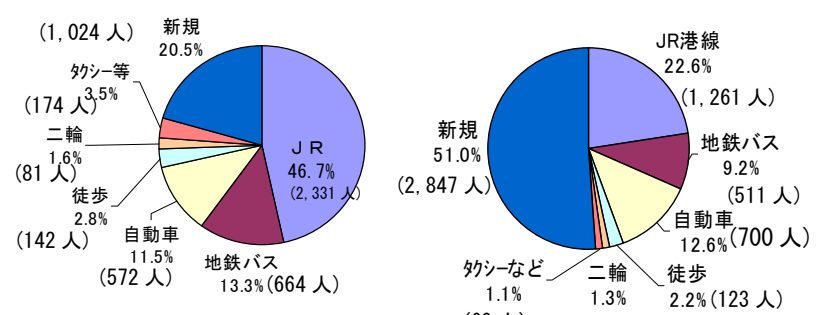


図 以前の交通手段（平日）

図 以前の交通手段（休日）

新規とは、新たに外出機会が出た人を指す



## 富山市の公共交通活性化策

富山市では、公共交通活性化によるコンパクトなまちづくりとともに、公共交通の利用促進による省エネルギーを、市民、交通事業者、行政が一体となって取り組んでいきます。

### 鉄軌道の活性化策

富山市には、JR、富山地方鉄道、富山ライトレールと多くの鉄道や、軌道（路面電車）が残っています。この鉄軌道を活用し、市民の便利な足として使っていただけるよう運行本数の増加や待合環境の改善、駅アクセスの改善などサービスレベルの向上を目指します。



路面電車の環状線化



路面電車電停のハイグレード化



高山本線の活性化実験

### バスの活性化策

運行頻度の高い路線や都心と地域拠点、拠点施設（病院・空港など）を結ぶ路線を公共交通軸と位置づけ、これらの路線を重点に、利用しやすさとわかりやすさ、快適性の向上を目指します。



情報システムの強化



バス待合室の整備



バスマップの作成

### 公共交通の利用促進

より多くの市民に公共交通機関を利用していただけるよう情報を発信するとともに、公共交通の必要性への理解促進と参加意識の向上を図ります。

## 公共交通を積極的に利用しましょう

公共交通の活性化と省エネルギーの推進のためには、行政や交通事業者の努力のみならず、市民の皆様の理解と支援が必要です。

市民の皆様一人ひとりが、公共交通を積極的に利用するようご協力をお願いします。

お問い合わせ

富山市都市整備部交通政策課

〒930-8510 富山市新桜町7番38号

TEL (076) 443-2195